



妊娠中や授乳中は薬が飲めないといわれて風邪をひいてもじっと我慢の日々です。OCFCだったら何か処方していただけたのかしら。
(初めての赤ちゃんにドキドキのママ)

それはそれはお気の毒に。でも我慢でき治ればそれが一番よさそうです。妊娠中と授乳中では話が違います。まずは妊娠中のお薬。まず妊娠がわかる前の第3週までは体ができる前ですので影響はありません。一番避けたい時期は妊娠4~7週の時期、ついで15週までは体の構造ができるところですからできるだけ薬を飲まない方が無難です。16週以降では体が発達する時期なので薬を選べば飲むことができます。いずれにせよ具体的な使用は信頼できる医師に相談してください。知らない

うちの飲んだ薬についての相談などは虎ノ門病院の妊娠と薬の相談外来で可能です。

さて授乳中のお母さんのお薬ですが。お母さんにお薬を飲んでいただいて授乳すれば基本的には母乳から乳児に移行します。すなわち赤ちゃんの体に入ることが前提になります。しかしこの量は大変少なく子どもの血中濃度としては必要量の1%といわれています。すなわち子どもに与えてよい薬を母親に与えれば、子どもに移行しても多くの副反応は出ないことになります。なぜ日本で授乳中の母親に投与することに多くの医師や薬剤師が躊躇するかというと多くの薬剤には授乳中の母親に投与すると母乳に分泌しその安全性が確立していないと書かれているからです。実際に日本では禁止あるいは授乳を避けると記載されている薬剤は73%であるのに対して、例えばアメリカでは3%であり、使用可能薬剤は74%に上ります。OCFCでは授乳中の母親に対しては子どものお薬を体重換算で積極的に投与しています、授乳中の母親安心してお子様と一緒に受診してください。実際に母親に投与できない薬剤はほんの僅かです。

(OCFC院長)

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	その他	29#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#	MR	31#
隔離感染症	14#	取消	30#	水痘	26#		
予防接種	15#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0#誤っていれば1#で行って下さい。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(3台)
オゾン空気清浄・防臭装置(2台)、電解水発生装置、消毒用専用スプレーヤー
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、パルスオキシメーター2001、聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテーブル

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科(併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00
土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00
(日曜・祝日休診) 駐車場七台あり

予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp



東急多摩川線矢口渡駅前

OCFC NEWS

2006年8月1日号 Vol.27

大川こども&内科クリニック

変わるワクチン接種

さらに遅れる新型日本脳炎ワクチン

新型日本脳炎ワクチンはこの秋に発売の予定でしたが更に遅れそうです。現在のところ2007年春も使用できそうにありません。従来のワクチンは2007年2月で有効期限が終了します。すなわち来春は日本全体が日本脳炎に無防備になる可能性があります。今まで追加あるいは9歳での接種は新しい日本脳炎ワクチンでとお話ししていましたが、場合によっては今年のうちに接種することも必要かもしれません。東南アジアではまだまだ大流行が続いている。日本でも豚を始め家畜の感染率は70%を越えています。人では感染してもその発症は1%以下ですが、一旦発症すると約6割で死亡または重い後遺症を伴います。何年も予防接種をしないわけにはいかないでしょう。来年も続けば3年目となります。予防接種をしなかったつけは子ども達に回ってくることでしょう。

8月の日曜診療はお休みです。

8月は比較的患者さんが少ない月です。OCFCでは8月の休日診療と第一土曜日、第二土曜日の

休診日 8月5日(土曜日)、6日(日曜日)、12日(土曜日)、13日(日曜日)
午後休診 8月19日(土曜日)、26日(土曜日)

☆8月の栄養相談は中止です。

☆アレルギー外来、発達心理外来も予定が変わります。受付でお確かめ下さい。

注目をあびるOCFCトリアージシステム

昨年11月11日フジテレビのめざましテレビ、今年5月15日テレビ東京の主治医が見つかる診療所にOCFCのトリアージシステムが取り上げられました。トリアージとは患者さんの状態を待つ余裕がある方、すぐに処置が必要な方ともう手遅れな方に分類して、患者さんの優先順位をつけ、

すぐに処置が必要な患者さんを優先的に診る体制です。季節によっては1時間ぐらいお待たせしますから、重症な方には大切なシステムです。皆様にもこのシステムをご理解されて、重症な方の優先診療にご協力下さい。優先される患者さんは1日に1~3名ほどです。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

●インフルエンザ最終報告

今シーズンのインフルエンザ罹患者数は553名、A型548名、B型5名でした。第一号患者さんは11月21日、最終患者さんは6月13日でした。検査キットの普及に伴いシーズンオフにも患者さんがいらっしゃることが判ってきました。どうやら少數ですが1年を通じて発症している可能性があります。OCFCでのインフルエンザの検査数は1128名でした。ことしの特徴はA型が香港型とロシア型が流行したためにインフルエンザAに2回罹患した方もいらっしゃったことです。

OCFCでは今年の秋も9月末よりチメロサールを含まないワクチンを接種開始いたします。

●依然大流行の感染性胃腸炎、夏は食中毒にご注意下さい。

感染性胃腸炎は4月232名、5月199名、6月105名と少しずつ減少傾向にありますが患者数としては一番多いようです。原因はロタウイルスから再びノロウイルスに変わってきました。ノロウイルスは9月から年末にかけて再び猛威を振るうことでしょう。7月、8月の感染性胃腸炎の原因としてはアデノウイルスも見逃せません。アデノウイルスの場合は熱が5日前後続くときもあります。一番厄介なことは下痢が長引き、1~2週間続くことがあります。夏のもう一つの原因是病原性大腸菌など細菌性の嘔吐・下痢症です。この場合は病初期には嘔吐、下痢を止めてはいけません。症状がかえって悪化する危険があります。原因である病原体を排泄するために下痢は必要です。

対策は勿論手洗い、調理したら直ぐに食事、保存したものは(たとえ冷蔵庫に入れてあっても)信用しない。食事に関してはモッタイナイとは思わないことが大切です。おかしいなと思ったら捨てる勇気を。

●夏風邪大流行 ブール熱は過去10年で最大です。

夏風邪にはアデノウイルス感染症と、腸管ウイルスであるエンテロウイルスによるヘルパンギーナがあります。アデノウイルス感染症は咽喉が痛く白い膿がついていれば滲出性扁桃炎、目も赤ければ咽頭結膜炎(ブール熱)、咳が強くなると気管支炎、嘔吐、下痢があれば急性胃腸炎となります。最近では滲出性扁桃炎と咽頭結膜炎をあわせてブール熱と診断することが多いですが本来は区別されます。臨床症状から容易に診断できますが、場合によっては検査にてはっきりさせます。OCFCでは病児保育室うさぎのママ入室時に部屋割りの関係で未確定者全員に検査を行っています。検査は4月38名、5月136名、6月133名でした。診断した患者数は4月32名、5月143名、6月168名でした。いずれも水分の補給を十分に確保し、安静が一番です。5日以上熱が

続く場合は抗生素の適応も考え検査が必要でしょう。

ヘルパンギーナはエンテロウイルスというお腹の中にいるウイルスによっておこる感染症です。4月1名、5月41名、6月108名と急上昇、7月、8月も威圧を古いそうです。現因となるウイルスは全部で18種類あります。すなわち18回ヘルパンギーナになる可能性があります。通常一夏に3種類ぐらい流行するようです。症状は突然の高熱(38~40度)。のどが痛くて、食事が取れない、つばが飲み込めず涎が出るままになる。なかには飲み込めないので吐くこともあります。熱は1~2日でおさまる人が多く続いても4日間です。熱は弛張熱といって解熱してはまた高熱となります。のどの発赤・水泡・潰瘍が診断の決め手です。

ウイルス感染症ですから抗生素は必要ありません。熱が高くてぐったりしていればアセトアミノフェン(カロナール)を使って熱を下げてもいいでしょう。喉が痛いので熱い飲物は無理です。冷ましたミルクや牛乳、お茶やスポーツドリンク等の水分を与えましょう。水分が取れれば乗り切れますが、できればアイスクリーム・プリン・ゼリー・豆腐・冷ましたおじややグラタンを与えてもいいでしょう。熱が下がってものどの水泡・発赤・痛みは残つていまが、38度以下であれば入浴は可能です。

●マイコプラズマ肺炎にご注意

マイコプラズマは夏になんでも流行中です。4~6月で25名でした。最近はマクロライド系の抗生素の苦味が大分軽減されて飲みやすくなっています。口の中に残すと段々苦味が増します。早めに水分をとって抗生素を飲み込みましょう。

●大流行の溶連菌

検査が多いのは溶連菌感染症は4月38名、5月59名、6月48名です。検査は4月80名、5月110名、6月119名と感染者の凡そ2倍です。溶連菌は診断されると治療に直ぐ反映される、アデノウイルス感染症と紛らわしい場合がある、などのためでしょう。バイシリン1日2回投与で早期再発者があるため、1日4回に分割して効果が上がっています。しかしこの1日4回服用法は保育園での与薬ができないことが大きなネックとなって多くの方には処方できません。保育園での与薬が可能ならばもっと効果的なのですが。

●その他の感染症

麻疹が茨城、千葉県で流行しましたがOCFCにはいらっしゃいませんでした。風疹もそうです。小流行は流行性耳下腺炎で31名、水痘で49名、伝染性紅斑で31名、手足口病で9名でした。水痘は一部の方が虫刺症と紛らわしく、診断が1日遅れることもありました。また虫刺症であったこともあります。ご両親で水痘、流行性耳下腺炎に罹患していない方は急いで予防接種を受けましょう。

うさぎのママ だより

うさぎのママご利用の皆様は4月89名、5月105名、6月153名でした。入室者の病名はやはり上気道炎が多いようですが季節柄アデノウイルス感染症が増加しています。アデノウイルス感染症70名、上気道炎115名、肺炎気管支炎50名、感染性胃腸炎28名、ヘルパンギーナ13名、溶連菌12名などでした。6月に入室者が多いのは保育士さんを臨時で雇って6~8名で運営したからです。8名定員でも入室者は満員でした。この事実を元に大田区には4人定員から6人定員への補助の増額をお願いしたいと思っています。現在署名運動展開中です。キャンセル待ちで入れない不満がある皆さん、是非ご協力下さい。大田区で夏休みなしで病児を引き受けているのはうさぎのママだけです。稼働率が100%近いのもうさぎのママだけです。献身的に働くうさぎのママのご支援下さい。

病診連携

検査紹介は8名、外来紹介は61名、入院は10名、患者受け入れは6名でした。

紹介患者は東京医科歯科大学小児科に脳波検査、心電図での心エコー検査、頭痛での東邦大学放射線科へのMRI及びCT検査です。外来以来は乳児でのあざの治療が多くなり、虎ノ門病院皮膚科、成育医療センター皮膚科に紹介しました。またヘルニアは東京医科歯科大学小児外科に紹介しました。その他、都立広尾病院循環器科、東邦大学循環器科、荏原病院整形外科、昭和大学皮膚科、成育医療センター心理などに紹介しております。一番多いのが中耳炎疑いで近傍の耳鼻科の先生にお願いしました。

入院は東邦大学小児科に肺炎で4名、内科でギランバレー症候群(四肢の麻痺)で1名、耳鼻科へ扁桃周囲膿瘍で1名紹介しました。社会保険蒲田総合病院へは肺炎で2名、日赤医療センターへはMCLSと心疾患の発熱患者さんを依頼しました。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(院長・三宅)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長・佐々木)
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(富沢)
木	内科・循環器(弓場)	1・3・5水 じっくり外来(院長)	
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
	小児科・内科(院長・荒木)	乳健・予接(1時~2時)	小児科(荒木:2時~3時)
土	神経外来(荒木)	じっくり外来(院長:不定期)	
	発達心理(藤本)	栄養相談(関)(乳幼児・生活習慣病)	
	2・4土 アレルギー(大柴)		
日曜・祝日	9時~12時	休日診療・予接(院長・荒木・佐々木)	

乳健: 乳児健診、予接: 予防接種、ア: アレルギー疾患 慢: 慢性疾患 栄養相談の予約: 代表電話で直接予約下さい。
●毎週日曜日午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

逆紹介では転地による喘息の管理依頼が多いようでしたが、1名東大小児科から外来管理の依頼をうけて現在治療中です。

院長の サイエンティフィックアクティビティ (Scientific activities)

4月21日から23日までは金沢で行われた日本小児科学会に出席してまいりました。その時の出席レポートを東京小児科医会広報誌に掲載しています。ご希望の方には別冊を差し上げます。同時に福井市にある平谷こども発達クリニックを訪問してきました。発達障害児のためのクリニックを運営しています。この記事に関しても別冊があります。6月10日には神戸での日本小児科医会セミナーに出席しました。一般紙ではNIKKEI プラス1 夏休みのこどもはここに注意 2006年7月8日 日本経済新聞、月刊 子どもを学ぶ 夏のうつる病気と皮膚対策 ベネッセコーポレイション 平成18年7月発行、ぴあ こどもと遊ぼう 夏 平成18年7月10日発行 おでかけトラブルサポート夏 体の不調予防とケア、ecomom 夏の子供のトラブルケア 71~73頁 2006年5月号 平成18年5月15日発行、ぴあ 子どもと遊ぼう春&G.W. 平成18年4月10日発行 おでかけトラブルサポート春 体のトラブル などがあります。

処置室 から

処置室に訪れる患者さんは毎月1000名から1500名ぐらい。点滴は50~100名、呼

吸困難時の吸入は100名前後、最も多いのが鼻吸引で400名ぐらいです。
その他各種迅速検査、レントゲン、心電図、検尿から、座薬挿入、内服のお手伝い、軟膏の塗布など、ご希望されればお母さんと一緒に子どものお世話を致します。